

キャラクターを活用した地域振興

梶川武竜

本研究は、ご当地キャラクターが地域振興の成功に結び付くのか明らかにすることを目的としている。具体的には本研究で対象となるご当地キャラクター・ゆるキャラと呼ばれる、地域や特産品のアピールのために作られたキャラクターが、なぜ地域振興の成功に結び付くのかを先行研究やアンケート調査、ふじみ野市の「ふじみん」を事例として検証を行った。

先行研究では、人がキャラクターに求めるものとしてかわいらしさだけでなく癒しや活力を与える効力を持っていること、活用するためにはキャラクターだけでなく付加価値が必要とされていることが明らかになった。

2章で、筆者は活動しているご当地キャラクターのモチーフとなっているものの分類を行った。その分類結果から、地域が認知を広めるためにその場所にしかないものを用いることや、キャラクターの形をとることでストーリー性を持つことが重要であることも示した。

3章で、ご当地キャラクターを地域振興に活用する事例や実際に地域のアピールになっているのか、学生を対象にアンケート調査を実施した。結果として旅行・観光は地域資源や観光地に行くことを目的としていること、地域資源などを再発見し維持することが地域アピールにつながると認識されていることが明らかになった。しかし、ご当地キャラクターを認識していても会いに行きたいと考える人は少ないという結果となった。これはアンケート対象が大学生という事が影響していると考えられる。

そこで、具体的にふじみ野市の「ふじみん」の活用事例を取り上げた。ふじみ野市のしだれ桜と大井武蔵野・上福岡駅西口・新河岸川堤防の3か所ある富士山ビュースポットといった地域の価値に気づき、キャラクター使用だけでなく市報やグッズ等で地域の内外に知らせている活動が明らかになった。

結果としてキャラクターを地域振興につなげるには、地域に根付いたモチーフを活かしたキャラクターを生み出すことに加え、テレビや市報などで活用し認識を広め、グッズ販売や観光ガイドブックなどキャラクターを多くの場所で使用し、日常の中で地域に対する意識をもたせることが必要だといえる。